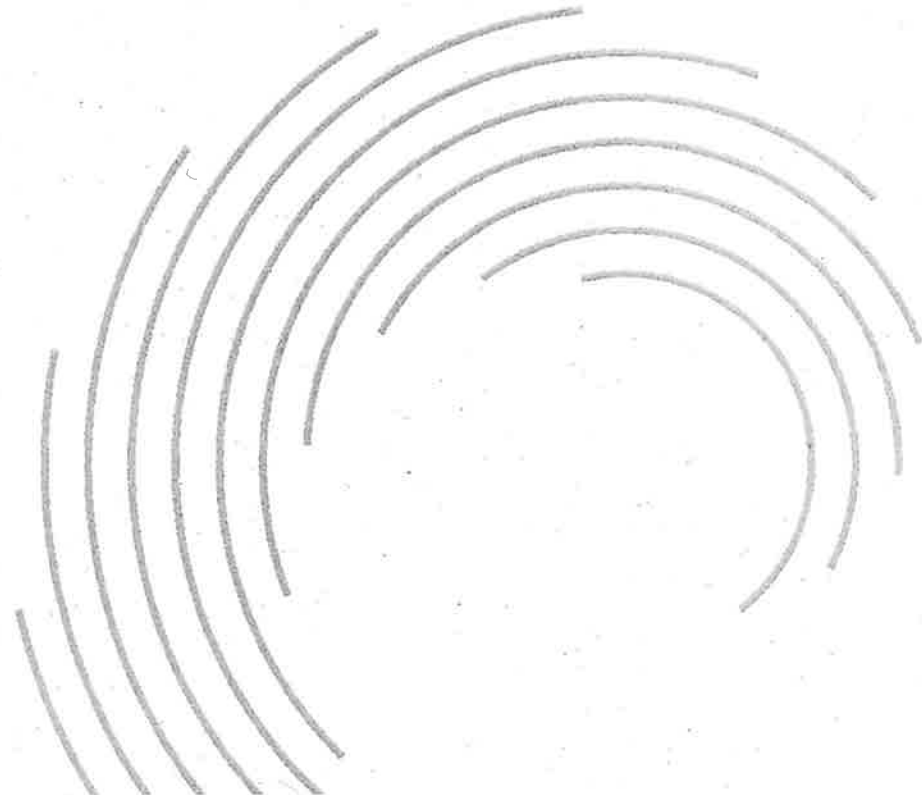




COPD疾患啓発事業 資材のご説明

2022/07/22

Copyright 2022 Cancerscan Inc. All Rights Reserved.



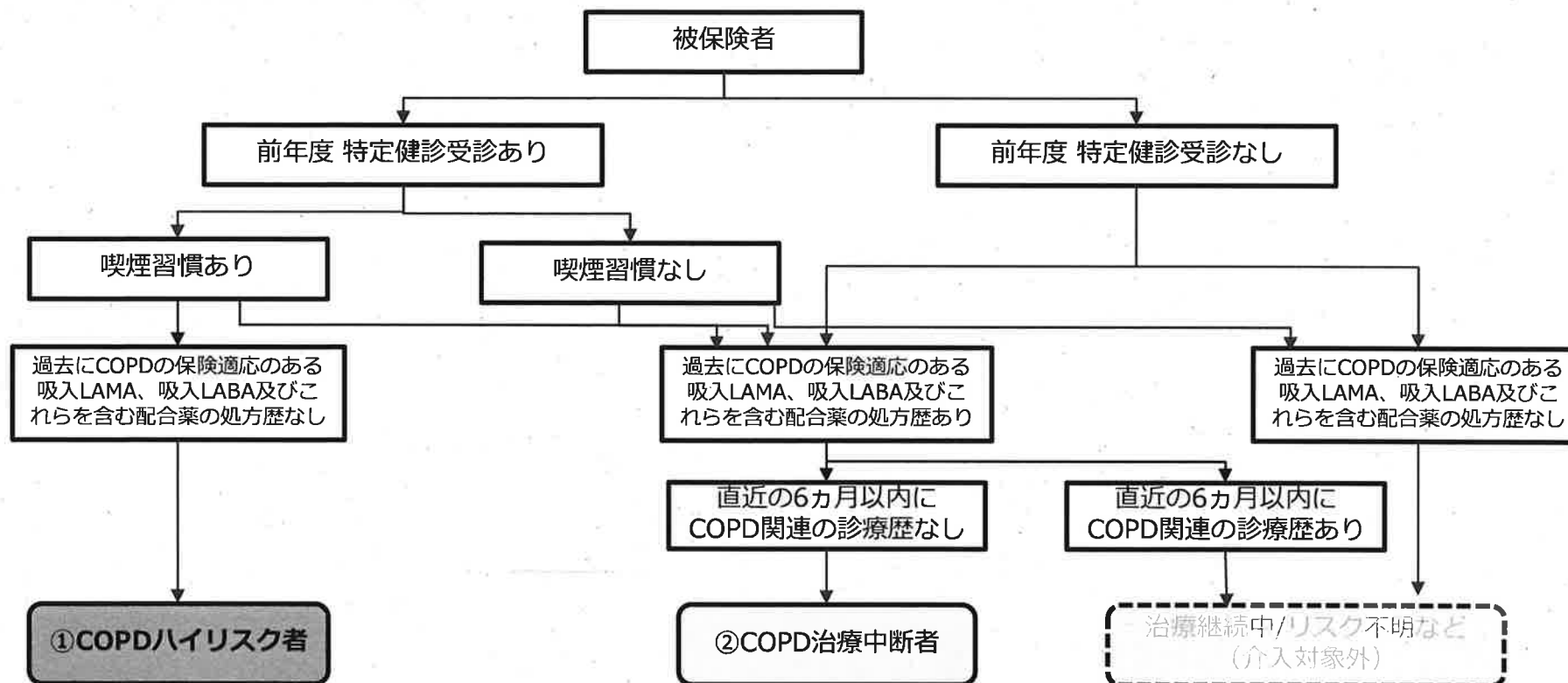
目次

- COPDハイリスク者の資材説明
- COPD治療中断者の資材説明

COPDハイリスク者

COPDハイリスク者の定義

- 対象者定義：前年度の特定健診受診歴があり、喫煙習慣があると問診票で回答している人のうち、COPDの薬物治療歴がない人（40～74歳、そのうち60～70代男性が7割）



煙草が健康を害することは百も承知であるし、禁煙を考えたこともゼロではない。
しかし、「これまで煙草を吸っていても、肺のレントゲン検査で異常を検知されたことはないから、
肺の病気に罹る可能性は高くない」と、自分なりの根拠や煙草を吸う言い訳を持っている。

- 事業で行動変容を狙う対象者：生活習慣病で医療機関へ定期的な通院をしていて、かかりつけ医に近い病院がある
- 「病院には行かない」という方もいらっしゃいますが、その方々を動かすことは現状優先順位を下げる

「医療機関連絡票あるし、楽な治療で対処できるなら行ってみよう」

- 喫煙本数の多さで自分ごと化を狙う
 - 1日1回の吸入薬で治療ができると、対処可能性を見せる（ポジティブなメッセージにする）
- ただ、それだけでは「とは言っても、まだ自分は大丈夫」という言い訳をする人もいますので、
- 「医療機関連絡票※」を渡して、病院に行った方がよい感を演出する

※医療機関連絡票：クリニックから大学病院等への紹介状のようなイメージ、自治体からの通知なので紹介状ではなく「医療機関連絡票」とする（名称はご相談）

資材パッケージ (最大)



A4サイズの封筒に、かがみ文 (A4) + リーフレット (見開きB4) + 医療機関リスト + 医療機関受診連絡票を封入する

封筒



かがみ文



リーフレット



+ 医療機関リスト
+ 医療機関受診連絡票

かがみ文

色味は修正予定です（白ベースにします）




喫煙習慣のある方へ

**COPD(肺気腫・慢性閉塞性肺疾患)に関する
受診のおすすめ**


— (ご案内を述べる理由) —

令和3年度〇〇市の特定検診を受診し、「喫煙習慣がある」と回答された方にお送りしています。
〇〇市は、肺の健康状態を維持することは介護状態にならないためにも大事なことと考えて
おります。喫煙習慣のある方にCOPD(肺気腫・慢性閉塞性肺疾患)を正しく知っていただき、
今の肺の状態を知るために医療機関を受診することをお勧めすることになりました。

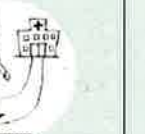
受診の流れ



STEP1
医療機関を選ぶ



STEP2
電話で予約する



STEP3
受診する

医療機関連絡先、保険証、診療料をお持ちください。

【問い合わせ先】 〇〇市 〇〇〇〇課 TEL: 000-000-0000

リーフレット (イラストは色付けします&一部修正中です)

表紙

あなたの今の
COPD (肺気腫・慢性閉塞性肺疾患)
危険度は?

危険度 70%

危険度 20%

喫煙本数 1日10本

喫煙本数 1日30本

喫煙年数 40年の場合

〇〇市 〇〇〇〇課

中面1

今すぐチェック
できます!

あなたのCOPD危険度はいくつ?

1日あたりの
喫煙本数 (本) × 喫煙年数
(年)

喫煙指数

もし、指数が400以上であれば、
COPD (肺気腫・慢性閉塞性肺疾患) のステージに
既にいるかもしれません。

喫煙指数

| 喫煙年数 | 10本 | 20本 | 30本 | 40本 |
|------|-----|------|------|------|
| 50年間 | 500 | 1000 | 1500 | 2000 |
| 40年間 | 400 | 800 | 1200 | 1600 |
| 30年間 | 300 | 600 | 900 | 1200 |

危険度 70%

危険度 20%

10本 20本 30本 40本 1日あたりの喫煙本数

リーフレット (イラストは色付けします & 一部修正中です)

中面2

危険度 **20%** 以上の方は

このまま放置すると、症状が悪化する恐れがあります。

重症化すると、いつも酸素吸入が必要になり、安静にしている時でも息切れするなど、進行の具合によって、日常生活に支障をきたすようになります。

同封の「医療機関連絡票」を持って医療機関を受診してください。

同封の色の封筒

〈 COPD (肺炎腫・慢性閉塞性肺疾患) に関するよくある質問 〉

Q. 対処法はありますか？

1日1回の吸入薬で肺の呼吸機能を維持できます。

吸入薬が気道の炎症を鎮静化してくれます。

COPD (肺炎腫・慢性閉塞性肺疾患) は早期に対処できるが、分かれ目、症状が出ていない・軽いときから吸入薬の服用を始めましょう。

| | |
|--------|--------------------|
| 吸入薬の費用 | ひと月あたり 700円～2,700円 |
|--------|--------------------|

健康保険が
ききます

Q. どういう病気ですか？

COPDは、肺の機能の一部が壊れて呼吸がし辛くなる病気です。

肺の機能は一度壊れてしまうと元には戻りません。

悪く悪化してしまうと、日常生活で重い物に出かけることさえも辛くなってしまいます。

裏面

この先の人生、自分の身体を大事にしてください。

定年退職して定年生活している高齢者男女のイメージイラスト

受診する際は、「医療機関連絡票」をご持参のうえ同封のリストに掲載の医療機関を受診してください。

〈 受診の流れ 〉

STEP1

医療機関を選ぶ

同封の医療機関一覧よりお選びください。

STEP2

電話で予約する

「COPD (シーオーピーディー) かどうかの診療も受けたいとお伝えください。」

STEP3

受診する

当日の持ち物

同封の医療機関連絡票と健康保険証、診療料をお持ちください。

医療機関受診連絡票 1



封筒に入れた状態で勸奨通知に同封する。紹介状を想起させるものにして、「これ持って医療機関に行かない」という印象をつける。次頁の書類（※1）に加えて、市から医療機関への依頼文（疾患啓発事業の説明、※2）を同封する。

※1：日本呼吸器学会より「COVID19流行期日常診療におけるCOPDの作業診断と管理手順」

スパイロメトリー検査は飛沫感染も懸念されることから、問診票でのCOPD診断ができるようになりました。

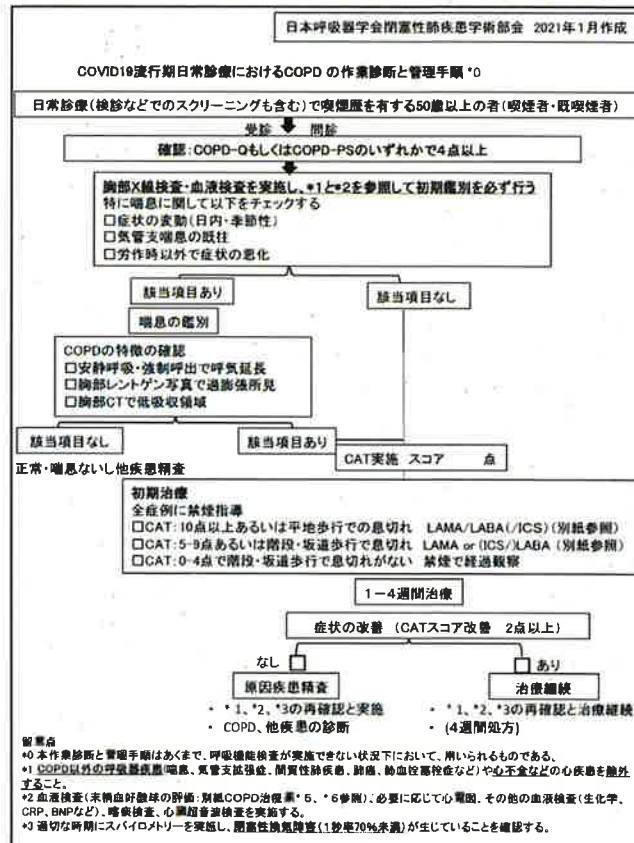
※2：COPDの疾患啓発事業として対象者に通知を送っている旨と、この医療機関受診連絡票を持ってきたらCOPDの診療をお願いしたいと医療機関へお願いしたい旨を記載します。

医療機関受診連絡票 2



日本呼吸器学会より「COVID19流行期日常診療におけるCOPDの作業診断と管理手順」

<https://www.jrs.or.jp/covid19/assemblies/old/20210108191206.html>



別紙: COPD治療薬 (喘息とCOPD オーバーラップの治療薬も含む)

LAMA/LABA

- ・ウルティブロ
- ・スピオルト
- ・アノーロ
- ・ビベスピ

LAMA

- ・スピリーバ
- ・シーブリ
- ・エンクラッセ
- ・エクリラ

LABA *4

- ・セレベント
- ・オンプレス
- ・オーキシス

*4 LABAは喘息該当項目が陰性で、喘息が否定的な場合に使用可

LAMA/LABA/ICS *5

- ・テルリジー
- ・ビレーズトリ

*5 LAMA/LABA/ICSは喘息該当項目が陽性で、喘息の合併が否定できない場合に使用を検討する。特に末梢血好酸球が300 cells/microL以上か5%以上の場合には効果が期待できる。

ICS/LABA *6

- ・アドエア(250)
- ・シムピコート
- ・レルベア(100)
- ・フルティフォーム

*6 ICS/LABAは喘息該当項目が陽性で、喘息が否定的でない場合に使用を検討する。特に末梢血好酸球が300 cells/microL以上か5%以上の場合には効果が期待できる。

表3 COPD-Q

お名前 記入日 年 月 日

COPDスクリーニングのための質問票(COPD-Q)

- 現在、おいくつですか?
40~49歳 0点 50~59歳 1点 60~69歳 2点 70歳以上 3点
- かぜをひいていないのに、たんがからんでせきをすることがありますか?
いつも 1点 ほとんどいつも 1点 ときどき 1点 まれに 0点 ほとんどない 0点
- 走ったり、重い荷物を運んだりしたとき、同年代の人と比べて息切れしやすい方ですか?
はい 1点 いいえ 0点
- この一年間で、走ったり、重い荷物を運んだりしたとき、ゼイゼイやヒューヒューを感じることはありませんか?
いつも 2点 ほとんどいつも 1点 ときどき 0点 まれに 0点 ほとんどない 0点
- これまで、たばこをどれくらい吸いましたか?
()に数字を記入し、次の計算をしてください。
1日の平均本数() × 喫煙年数() = 合計()
合計はどれですか?
吸わない 0点 1~399 1点 400~999 2点 1,000以上 3点

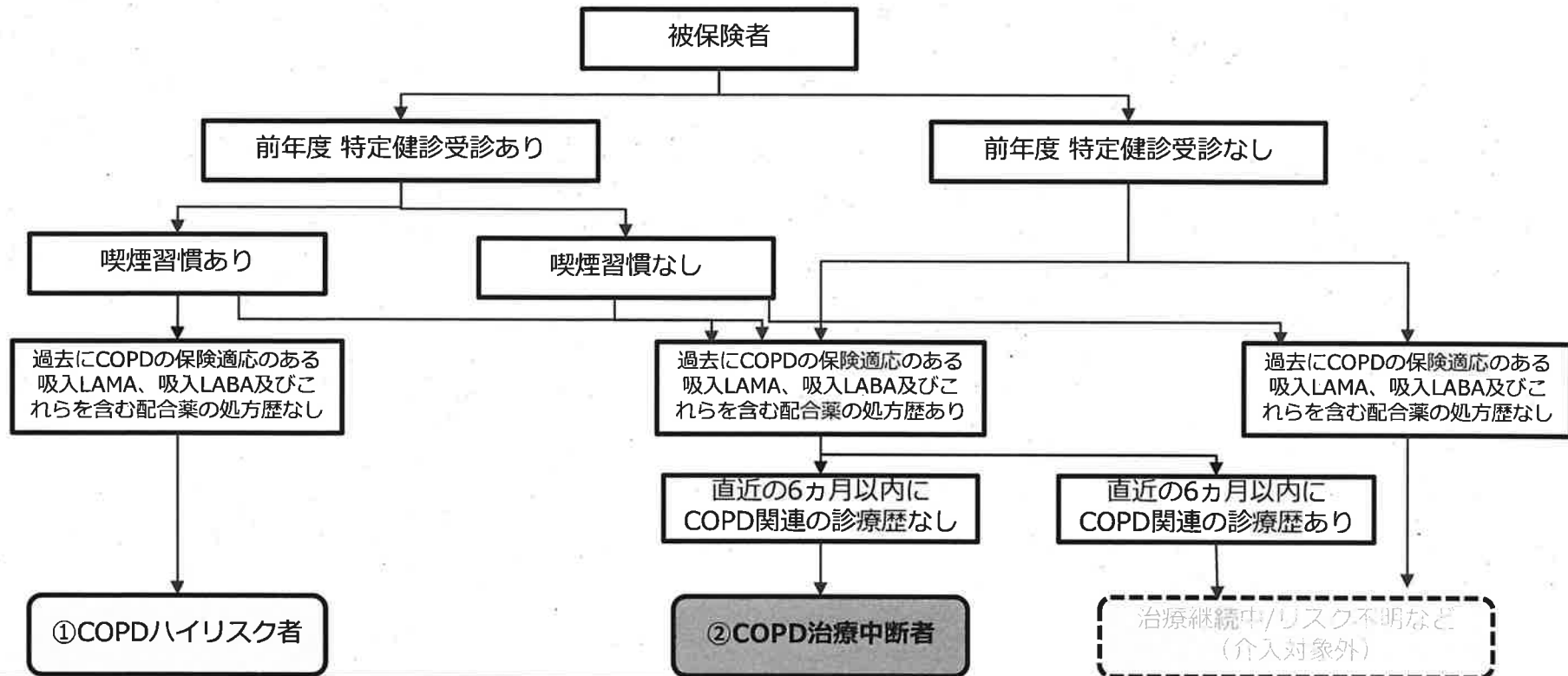
各質問の点数を足して合計点を計算してください。
1の点数() + 2の点数() + 3の点数() + 4の点数() + 5の点数() = 総合点()

総合点が4点以上でCOPD(慢性閉塞性肺疾患)にかかっている可能性があります。医療機関を受診し、呼吸機能検査を受けることをおすすめします。

COPD治療中断者

COPD治療中断者の定義

- 対象者定義：過去にCOPDの薬物治療歴があり、直近6カ月以内にCOPDに関連した診療歴がない方



吸入薬を処方されてしばらく服用したら、症状が治まった。
服用を止めても症状が治まっているので、もう服用を止めて問題ない、治ったと思っている。

- 対象者は、COPDの診断を受けていて、吸入薬を一度は処方されている人
- COPD治療の経緯として6割は健診や手術前の検査、他疾患の診療を通してCOPDと診断されていて、4割は自覚症状があり受診してCOPDと診断されている
- COPD診療歴のある人のうち、治療中断は3~4割程度
- COPDの治療をしている人は、「吸入薬があると楽になるから」、「（症状は治まっているけど、）医師に続けないと悪化すると言われていたから」といった理由と回答している

「あの吸入薬、実は症状を和らげるだけではなく、再発も防止する薬です」

- COPDは治る病気ではないため、症状が再発する可能性が高い
- でも、過去に服用した吸入薬を服用し続ければ、その再発も防ぐことができる
- 症状が出ることで起こるデメリット（呼吸困難）は事実として伝えるものの、治療再開によりその懸念も払しょくできるポジティブなイメージを与えたい
- 症状がなく服用がなくとも今困っていないため、「服用を続けないと将来大変なことになる」ではなく「服用を続ければいいこと（再発を防げる）がある」というメッセージにしている

資材パッケージ (最大)



A4サイズの封筒に、かがみ文 (A4) + リーフレット (見開きB4) + 医療機関リストを封入する

封筒



かがみ文



リーフレット



+ 医療機関リスト

かがみ文

色味は修正予定です（白ベースにします）
（デザイナー制作verを後日提出します）



COPDの治療経験がある方へ

COPD(肺気腫・慢性閉塞性肺疾患)に関する 受診のおすすめ

〈 ご案内を送る理由 〉

XX市は、肺の健康状態を維持することは介護状態にならないためにも大事なことを考えております。医療費データを分析し、COPD（肺気腫・慢性気管支炎）の治療歴があり、その後一定期間治療歴が見られない方へ、治療のための医療機関受診をお勧めすることになりました。
同封のリーフレットをお読みの上、以下の流れに沿って受診いただけます。

受診の流れ

```
graph LR; S1[STEP1 医療機関を選ぶ] --> S2[STEP2 電話で予約する]; S2 --> S3[STEP3 受診する];
```

医療機関連絡票、保険証、診療料をお持ちください。

【問い合わせ先】 ○○市 ○○○○課 TEL: 000-000-0000

リーフレット (イラストは色付けします&一部修正中です)

表紙

ご存知でしたか?

吸入薬は
症状を和らげるだけでなく
再発も防止
する薬なんです。

吸入薬の正しい
吸入の順番の案内

〇〇市 〇〇〇〇線

裏面

この先の人生、
自分の身体を大事にしてください。

治療を再開する際は、
同封のリストに掲載の医療機関を受診してください。

〈受診の流れ〉

STEP1 医療機関を選ぶ
同封の医療機関一覧よりお選びください。

STEP2 電話で予約する
「COPD (シーオーピーディー) の診察を受けたい」とお伝えください。

STEP3 受診する

当日の持ち物
健康保険証、診察料をお持ちください。

吸入薬の効果について

吸入薬には
気管支の炎症を鎮静化したり
呼吸機能の低下スピードを
遅くしてくれる作用があります。

- ◎吸入薬(気管支拡張薬)は、炎症によって細くなった気道を広げ、安定した呼吸状態を維持する作用があります。
- ◎吸入薬を服用することで、呼吸機能の維持ができ、風邪やインフルエンザ、感染症のダメージに耐えることができます。



吸入薬は、毎日、正しく
長く服用し続けることで
症状の再発防止に繋がります。

長期間の症状コントロールをすることで、
自分が好きなことをできる時間が増えます。

- ◎吸入薬の服用を続けている人は、
続けていない人に比べて生存率が高まります。



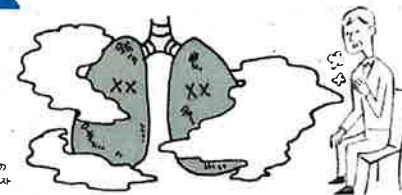
副作用で死亡する
気管支炎のイメージイラスト

症状の再発について

咳・たん・息切れの症状が
今はなくても、**症状が再発する危険性は続いています。**

気管支の炎症や一度壊れた肺の呼吸機能は、元に戻りません。

- ◎風邪やインフルエンザ、感染症にかかった場合、吸入薬を服用し続けていないと呼吸不全になって入院が必要になってしまう可能性もあります。



悪化した肺の
イメージイラスト